通信 ともに
第66号
2018年11月8日発行
認定NPO法人ともに
住所　〒044-0053
北海道虻田郡倶知安町北３条西２丁目１－１
でんわ　（0136）55−5828
ＦＡＸ　（0136）55−5829
Ｅメール　info@npo-tomoni.com
ホームページ　http://www.npo-tomoni.com　　ブログ　http://blog.canpan.info/npotomoni/

今月の一枚

秋深し　噴火湾と紅葉を望む *1
～八雲パーキングエリアにて

10月21日　ワークショップようてい利用者Oさん撮影

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい　ワークショップようていからお知らせ

じゃがいも「さやあかね」完売しました！

先月号で販売を伝えた農業部のじゃがいもは、10月末で完売しました。
今年は北海道全域で不作に見舞われたうえに人気が高く、予想以上の売れ行きとなりました。買おうと思った方は本当に申し訳ありません。
来年は豊作になるようがんばります。またよろしくお願いします。

石けん製造を終え、在庫限りの販売になります

ワークショップようていのロングセラーでした廃油石けん製造でしたが、このほど法制度が変わり、一般販売するためには検査機関による成分表示が必要になりました。そのコスト面を考え、廃油石けんの製造を終えることを決めました。
みなさんには長らくご愛顧いただきありがとうございました。在庫は若干数ありますので、お早めにお求めください。

だはしみ まめちしき
*1 噴火湾は北海道南西部にある大きな湾で「内浦湾」とも呼ばれています。八雲町は日本で唯一、日本海と太平洋の両方接している町です。

設立１０周年記念シリーズ　法人あのとき⑧

平成28（2016）年9月22日
第１回わっくわくまつり開催

「第０回」わっくわくまつり

かつてワークショップようていでは、毎年10月9-11日に開かれる「こんぴらまつり」と同じ日にフリーマーケットと商品販売をしていました。
「ともに創る地域の和　わっくわく」の建築が始まった平成26（2014）年、その販売行事を「わっくわくまつり」と称して開催しました。

原点は上棟祭

同年11月13日「わっくわく」の上棟祭（建前）を開催。その前日町内会の方に呼びかけ、餅まきに使う餅づくりを一緒におこないました。これがきっかけで一緒に地域のイベントを復活する動きが生まれます。平成28年春、ワークショップようてい・グループホーム・そして町内会による「わっくわくまつり実行委員会」を結成し、同年9月22日、第1回わっくわくまつりが晴天のうちに開幕。以後現在に至るまで、地域のイベントとして定着しています。

精神科医　土田正一郎の

その55　認知域（改訂版）

認知域という言葉を思いついたのは、2017年1月4日頃で、その言葉がどれだけ普及したかには興味ない。普遍化にはややこだわっている。
だから一年半を経過して、少し変更を加えたほうがいいのではないかと思った。認知域とは認知できる広さを示す概念ではあるが、広さだけではなく深さもあることが分かった。浅い認知域では、その本質を言葉に置き換えても上手く伝わらない。だから深く広い認知域に憧れる。

ともに顧問（自称）

各事業報告～７月末現在

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
契約／移行２人、Ｂ型20人
見学／4人、体験／０人

グループホーム よろこび
利用者　20人（定員22人）
見学／０人、体験／０人

◆法人会員　正会員20人、賛助会員　団体4　個人86人
◆30年度寄付金　のべ14人　128,075円
◆寄付物品　食材（ごぼう）

編集後記

先日福祉新聞で介護保険人材の処遇改善加算（職員給与向上で支給される金額）が介護職員限定から事務員など拡大との記事が。一方厚労省は障がい者福祉人材でも改善検討をしているそうです。職場定着は職員にとっても必要に思います。（かわさき）

正会員、賛助会員募集中！　法人にご協力よろしくお願いします。

だはしみ まめちしき
*4「第０回」わっくわくまつりと上棟祭については、第18号に詳しく載っています。ホームページの「ダウンロード」からごらんください。

講演会・研修会活動　みんなで学ぼう拡大版

10月27日、倶知安町のホテル第一会館で恒例の「みんなで学ぼう拡大版」を開催し、36人の方に集まっていただきました。

初めに小林理事長があいさつし、法人格を持って10年、いろいろと迷いもあったが福祉関係者、地域の人々、そして利用する方がいたからこそ成り立ったと感謝を伝えました。そして当法人が地域とともに活動していきたいと話しました。

前半の講演は、法人設立10周年ということで、10年前の2008年に講演をしていただいた浦河べてるの家で当事者でありながら精神保健福祉士として活動している伊藤知之（のりゆき）さんにふたたび登壇していただきました。講演は浦河べてるの家の活動を紹介し、精神障がいを持っている方がどのように作業しお互いを支え合っているのかを中心に、自らの体験を含めて話していただきました。

後半のシンポジウムでは、京極町社会福祉協議会の駒田拓朗氏、余市町のしりべし圏域相談支援センター理事長の安田亜子氏、ピアサポーターの川上幸弘氏をシンポジストとして迎え、福祉、教育などさまざまな観点から意見をいただきました。

小学生のお子さんを持つ親御さんから、司会の土田Dr.に講演を依頼する場面もあり、今後福祉と教育がもっと協働していくことができるかも、という場面がありました。

伊藤さん、シンポジストのみなさん、今回も貴重なご意見をいただきありがとうございました。

赤い羽根共同募金受付中

10月から「赤い羽根共同募金」の運動が始まりました。10月9日火曜日には街頭募金に参加しました。コミュニティカフェわっくわくのカウンターにも募金箱を設置しています。

今年は先の地震や台風、大雨による被害が続いています。共同募金でも義援金を募集しています*2。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

*2 義援金の受け付けは北海道共同募金会へ現金書留または口座振替となります。詳しくは北海道共同募金会のサイトをご覧ください。

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい　ワークショップ10月の活動

13日　アビリンピック見学

会場のポリテクセンター北海道

ＰＣデータ入力競技。静かな闘いが続く

木工競技。木箱を作り正確さを競う

札幌市西区にある「ポリテクセンター北海道」でおこなわれた北海道大会を利用者４人で観戦してきました。ポリテクセンターは障がい者に限らず求職者や在職者が職業訓練とスキルアップを学べる場所で、旭川や函館など全道に４ヵ所あります。

アビリンピックとは障がい者の方による日ごろの作業技能を競う大会で、全国大会*3や世界大会もあります。

喫茶接客、ＰＣ入力、オフィス掃除など６部門で競われ、培った技能を発揮していました。

今回見学した4人の感想

Ｏさん…見学は２回目ですが、今回は特にパソコン入力に関心を持ちました。これから操作方法をもっと覚えていきたいです。

Ｓさん…喫茶の接客がたいへん参考になりました。言葉づかいや待っている時に手を前に重ねる姿勢をしていきたいです。

Ｍさん…久しぶりに遠出ができ、喫茶作業などを観られたので良かったです。

Ｈさん…競技だけでなく、事業所の商品が販売していたので楽しく見られました。

17日　健康づくり講座③

10月17日、倶知安町役場福祉医療課の保健師を招き「女性の悩みについて学ぼう」と題して開講しました。

更年期症状や女性特有の病気などふだんなかなか人に話せないものだけに、終了後も個別に質問するなどみなさん関心がありました。次回は冬に開催する予定です。

グループホーム よろこび　火災訓練を実施

9月末にワークショップようてい、グループホーム共同の火災訓練を実施しました。わっくわくの訓練では通報装置ではなく一般電話を使用した訓練をしています。

通話では建物の住所および名称、そして通話した人の名前と電話番号を正確に伝えることの大切さを学びました。

各住居では初期消火に使用する消火器などの場所を確認し、すぐに対応できるようにする必要性を感じました。

実際に使うことがないようにしたいですが、万一の場合にも冷静に対処できるように、今後も訓練を徹底していきます。

*3 今年は11月に沖縄県で開催されました。今大会など地方大会で優秀な成績をおさめた方を中心に都道府県から推薦され出場することができます。